

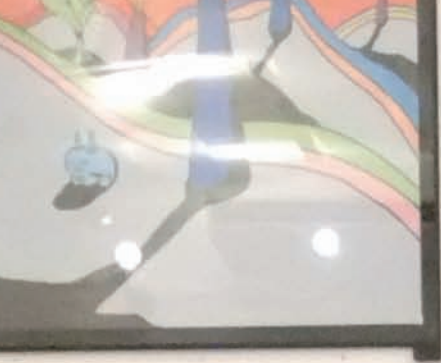
Poster-4 2013-2012

Takashi Akiyama

23 Międzynarodowe Biennale Plakatu w Warszawie 2012
Museum Plakatu w Wilanowie

23rd International Poster Biennale Warsaw 2012
Poster Museum at Wilanów
June 2nd 2012 - September 16th 2012





ごあいさつ

秋山 孝

秋山孝ポスター美術館長岡・館長
多摩美術大学・教授

秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) は、開館4周年目になる新作ポスター集「Takashi Akiyama Poster-4」を発行することが出来た。

今年のポスター作品の大きな特徴は、1つは国連主催の「Rio+20」のポスター展をブラジルのリオ・デ・ジャネイロと東京で開催したポスターである。国連・持続可能な開発会議「Rio+20」は、1992年に開催されたリオ・地球サミット「環境と開発に関する国連会議」から20年を機に、ブラジル政府によって2012年6月20日～22日の間、リオ・デ・ジャネイロで開催した。主要テーマは「グリーン・エコノミー（持続可能な開発および貧困緩和の意味でのグリーン・エコノミー）」と「持続可能な開発の組織的フレームワーク」だ。「Rio + 20」ポスター展は会期に合わせて6月20日から30ヵ国で同時に開催され、東京では、多摩美術大学図書館ギャラリーで6月20日～7月13日まで開催した。ポスターデザインは、持続可能な地球をイメージし、新たなグリーン世界とその調和の芽吹きをの明るさを表した。Rio+20に期待した優先課題は、1-持続可能な発展を実現させる財政的基盤、2-1992年に地球サミットを契機に築き上げてきた重要な展開を包括的かつ統合的に再構築する、3-グローバルな持続性を実現するための統合的な政策枠組み、4-将来を見据えた巨視的・長期的な視野に立つて社会システムの枠組みの調整である。時代は変化しつつある。勇気ある取り組みが必要だ。

2つ目は秋山孝の展覧会「秋山孝in四川成都2012」と題したポスターだ。昨年の中国での展覧会「秋山孝in四川成都2012」展（7月25日～6月26日）は四川省成都区政府の向かいにある桂湖公園の湖心楼で開催された。その庭園は、隋唐の時代に建設され2000年を経た優雅な佇まいだ。唯一保存され重要文化財に指定されている。日本の庭園とは異なり雄大な優雅さがある。オープニングセレモニーでは、小雨が降り、池に咲く蓮が美しく輝いていた。ぼくの作品は、その空間と想像以上に調和していた。展覧会ポスターのデザインは、四川のシンボル「パンダ」が竹藪のグリーンに同化し、芸術家のアングルに入った瞬間を現した。出会いの感動だ。ぼくたちは、いつも自然の中で美との出会いを探している。

3つ目は「第23回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ」のポスターである。ワルシャワ国際ポスタービエンナーレの審査員として5月にポーランドを訪れた。ぼくは、1985年に初めてワルシャワを訪れて以来ビエンナーレが開催するたびに参加している。ポスターの聖地のような街だ。世界からたくさんのポスターデザイナーが集まり国際交流の場である。審査は7人の国際審査委員の長い議論の末、各部門の金賞受賞者が決まり式典は最高に盛り上がる。このポスターは、展覧会告知のためのものでワルシャワの街中に貼られる。デザインは、ワルシャワのシンボルの人魚とポスタービエンナーレのマークとをモチーフにした。まるで日本の国旗のようだがビエンナーレのシンボルロゴだ。人魚が果敢にワルシャワを救う姿を描いた。

この3点の作品から伺い知れるように、ブラジル／リオ・デ・ジャネイロ、中国／四川成都、ポーランド／ワルシャワというように国際色豊かだ。



ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ カタログ(表紙)



第23回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ カタログ(見開き)

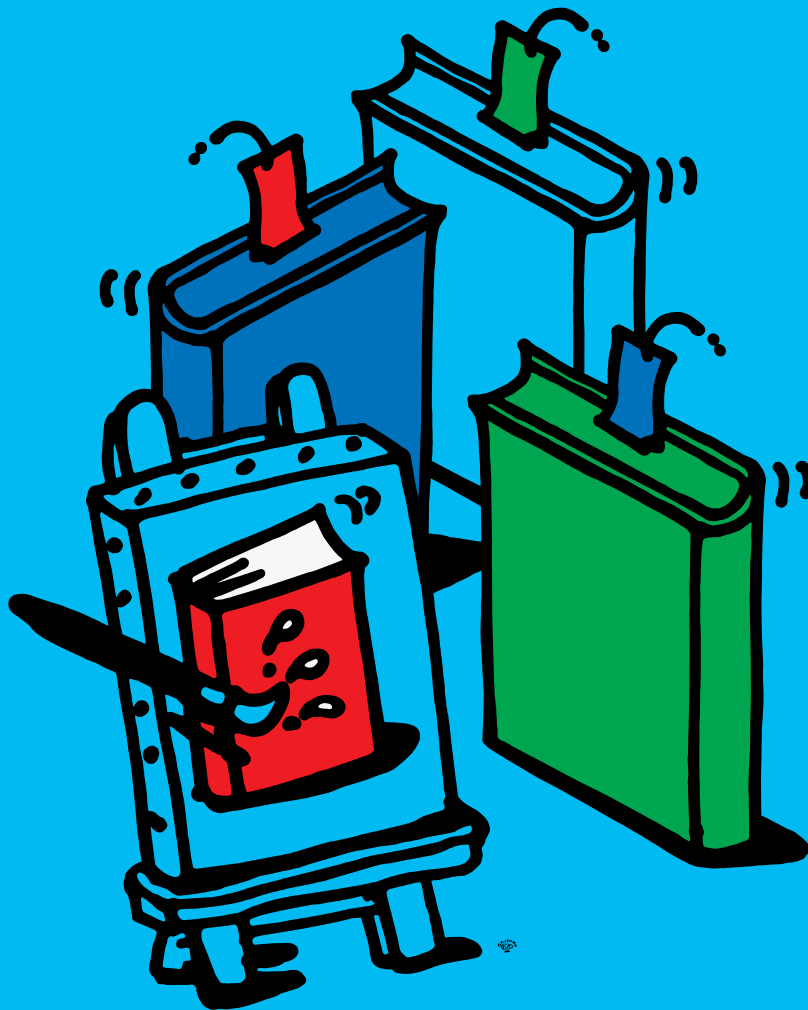
The 2nd Tokyo Book Jacket Illustration Competition 2013

第2回東京装画賞2013

作品募集 | 応募期間
2013年4/1(月)～5/10(金)必着

東京装画賞公式サイト <http://tosho-sekkei.gr.jp/tokyosouga/>

主催：日本図書設計家協会 東京装画賞実行委員会



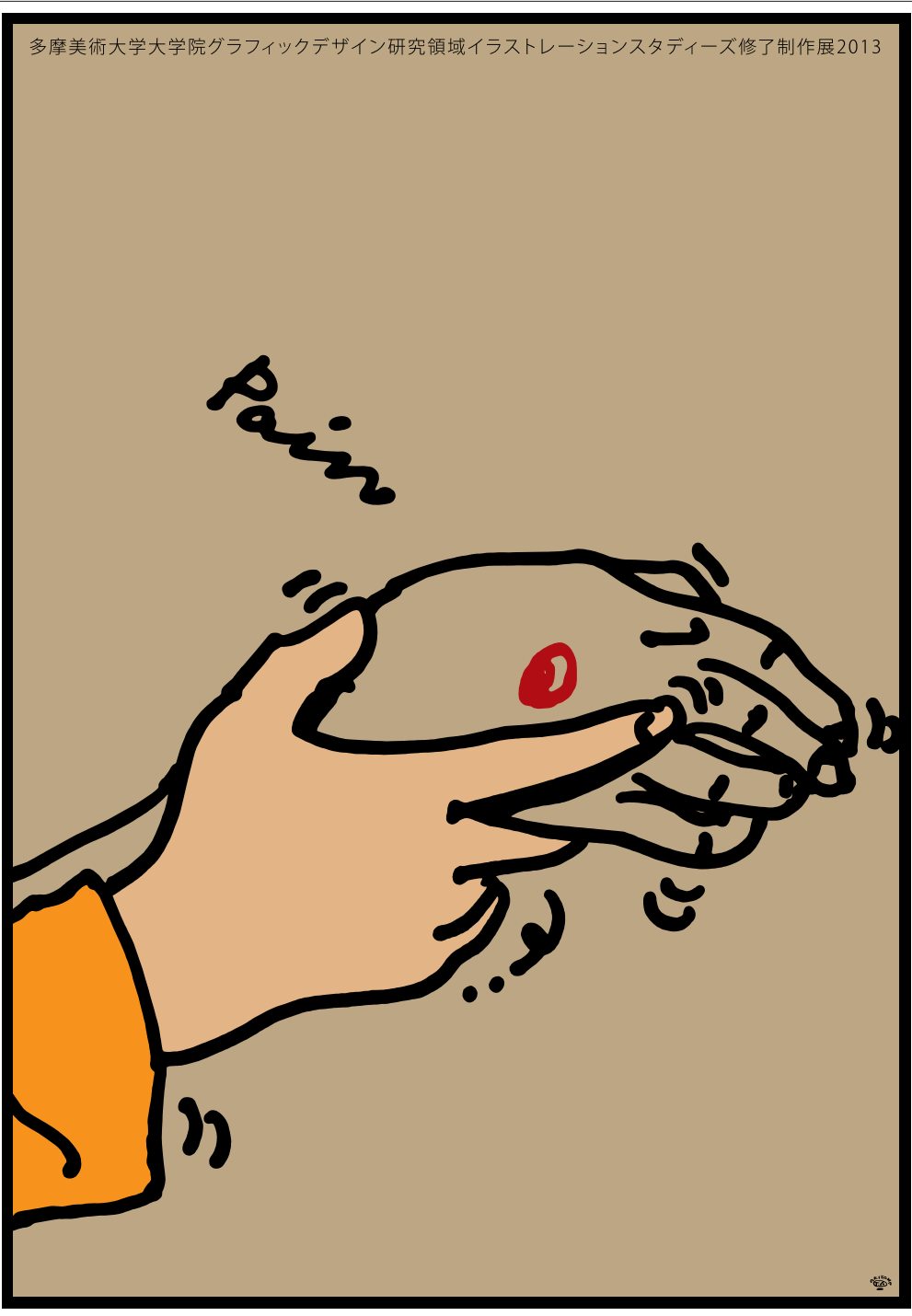
協賛：山脇美術専門学校 日清紙ペーパープロダクツ株式会社 秋山孝ボスター美術館長 株式会社竹雨 平和紙業株式会社 ダイニク株式会社 株式会社ヤマト タナー色彩株式会社



[Title] ----- 「第2回東京装画賞 2013」作品募集
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2013
[Client] ----- 日本図書設計家協会・東京装画賞実行委員会
[Category] ----- Culture

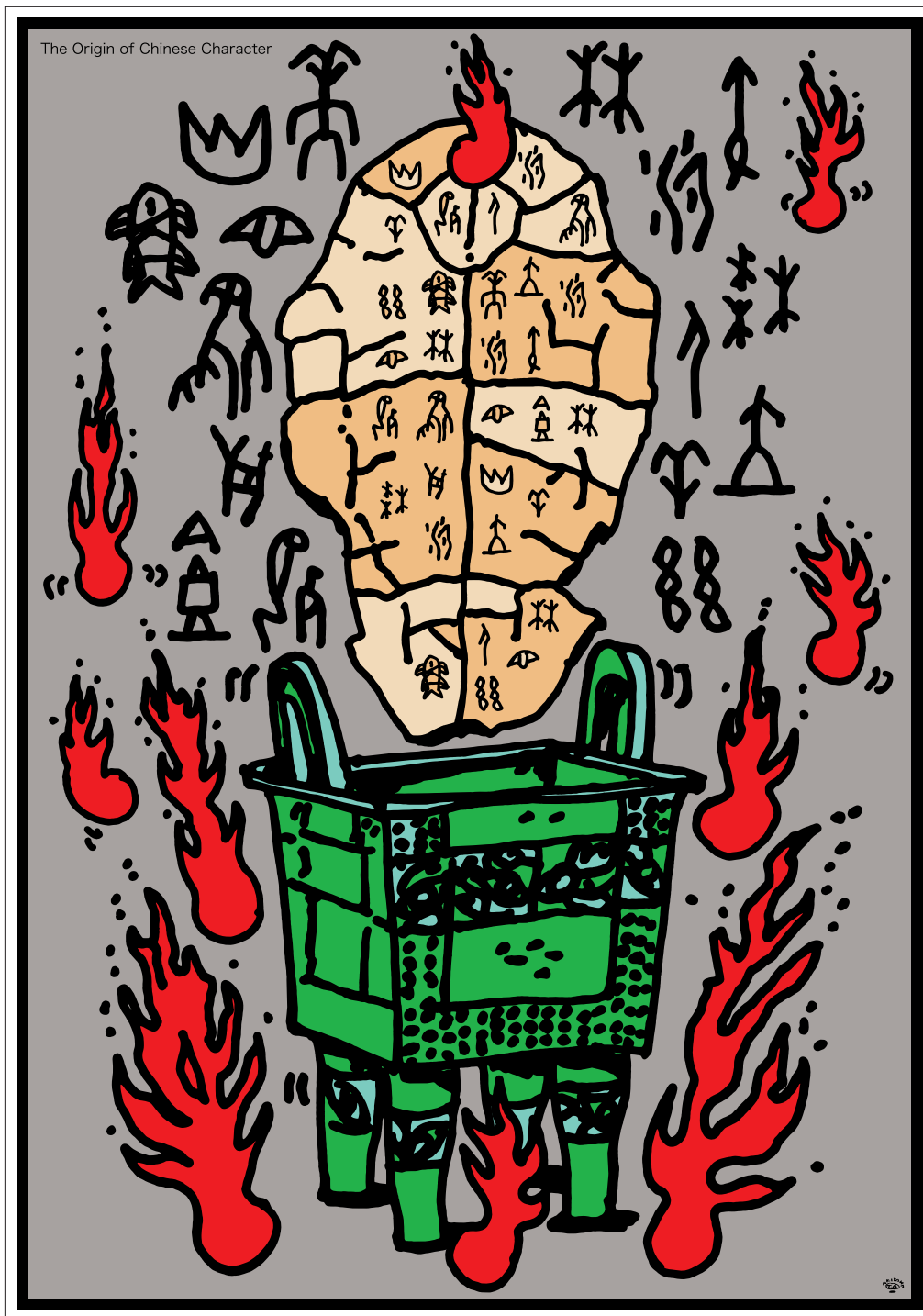
[Idea] ----- 東京装画賞も第1回展が終わると共に、第2回展の準備と公募をしなければならぬ。東京装画賞の実行委員会は会員全員がボランティアで行っているため、各自の時間が費やされ疲労感が表れてくる。しかし、これを実現したいという情熱は計り知れぬ力を発揮するので、感動ものである。公募情報を伝えるためには、紙のメディアからWebのメディアをフル活用し、情報を伝えなければならない。今回のポスターのアイデアは、イーゼルにキャンバスをのせブックジャケットを描いているシンボルを使い、前回のポスター同様に大きくイメージを変えずに、新たなイラストレーションイメージを作り上げた。その理由は、情報の氾濫のなかで東京装画賞の認識が大切だからである。

多摩美術大学大学院グラフィックデザイン研究領域イラストレーションスタディーズ修了制作展2013



[Title] ----- 多摩美術大学大学院グラフィックデザイン研究領域
イラストレーションスタディーズ修了制作展2013「Pain」
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2013
[Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
[Category] ----- Education

[Idea] ----- ぼくはイラストレーション研究グループの大学院生を教えている。学部生とは異なり、院生は専門分野のなかの自己のテーマを絞り、それを2年間かけて理論(実技)で各自の研究テーマを確立し、獲得することを目的としている。つまり、理論と表現の両輪から各自の独自性を見つけ出すよう指導している。この展覧会は、2013/3/10～16まで青山にあるGallery5610で開催した。ポスターのアイデアは、指導の間、教員、学生ともお互いに、研究における追求の厳しさで、心身とも痛み(Pain)を感じながら、その本質を見つけ出す。ジョバンニ・ペリーニのピエタ(1460年)から見られる哀れみの痛みを、置き換えて表現した。悲哀感が伝わるように描いた。



[Title] ----- The Origin of Chinese Character
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2012
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
 [Category] ----- Culture

[Idea] ----- 中国上海にある松江(ソンジヤン)美術館からの依頼で、古代というテーマで作品制作依頼があった。それはキャンバスで描いたものだ。それを元にポスター化した。ぼくは文字と青銅器を選び、それをモチーフとして描くことにした。実在の確認されている最古の王朝は殷とされ、黄河文明で生まれた巨大な都市国家の盟主である。現在存在する中で最古の漢字は、殷王朝第22代武丁の頃の甲骨文字である。また、殷から春秋時代までが青銅器時代に相当する。デザインは、青銅器と甲骨文字ともに「火」を重要なエレメントのつなぎとし、自然を表す、山、森、林、人、鳥、魚、美などの甲骨文字を配し、殷前期河南(かなん)省鄭州(ていしゅう)出土の獣面百乳文大方鼎の青銅器を中心に置いた。

Graphic Arts & Design - Academy of Fine Arts in Katowice and Tama Art University

グラフィック・アート&デザイン展

多摩美術大学&ポーランド・カトヴィツェ芸術アカデミー in 札幌

2012.12.01 sat - 12.20 thu プラニスホール (札幌エスタ11階)

10:00 - 20:00 (入館は19:30まで) 期間中無休・入館料無料



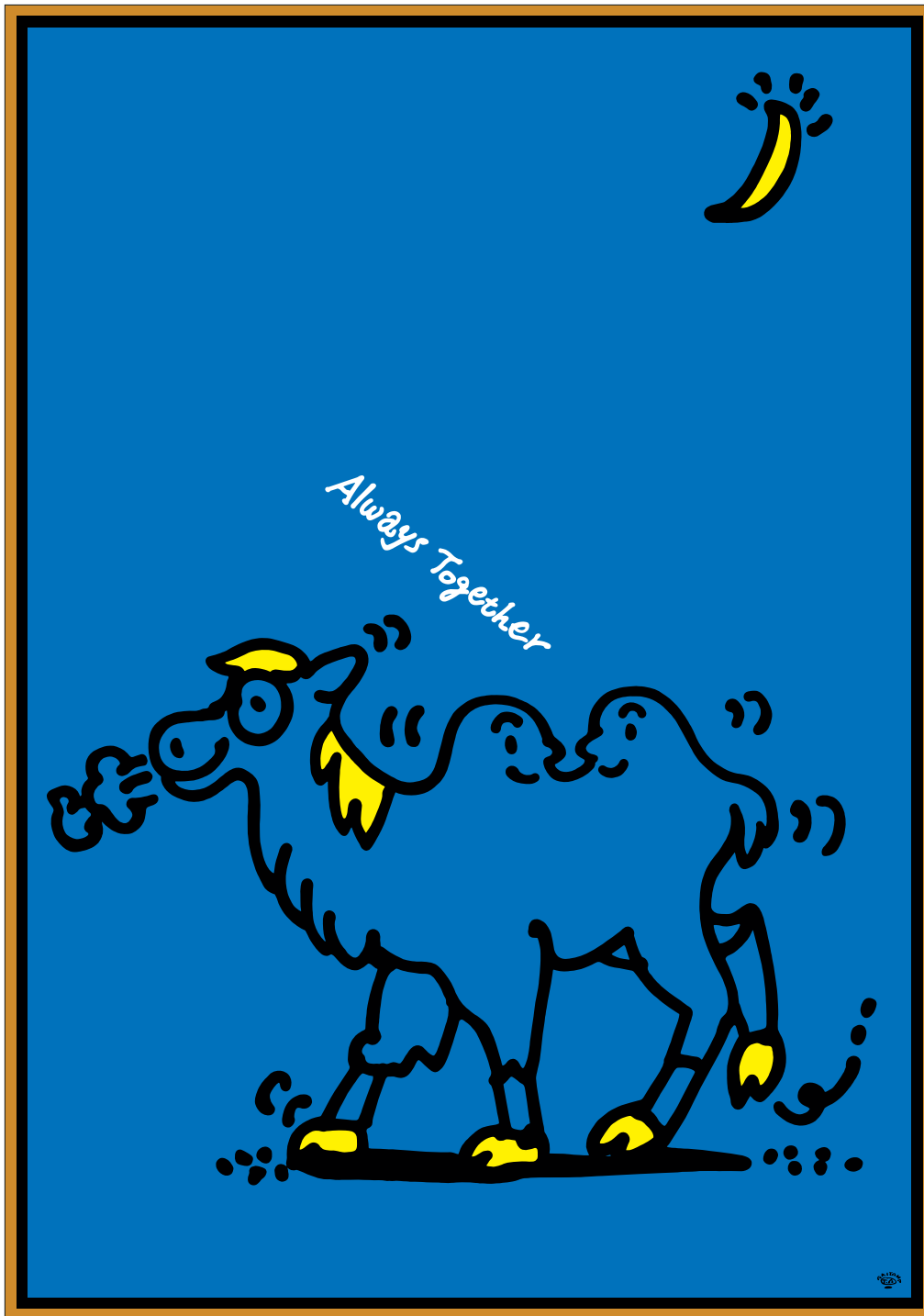
主催：多摩美術大学 札幌駅総合開発株式会社 協賛：JR 北海道 新日本造形株式会社 株式会社文房堂

後援：札幌市 札幌市教育委員会 ポーランド広報文化センター 多摩美術大学校友会 多摩美術大学校友会北海道支部 協力：ギャラリーシーズ



[Title] ----- グラフィック・アート&デザイン展
多摩美術大学&ポーランド・カトヴィツェ芸術アカデミーin札幌
[Size] ----- 841 x 594 mm (A1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2012
[Client] ----- 多摩美術大学 札幌駅総合開発株式会社
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 2012年6月に多摩美術大学美術館において開催された「多摩美術大学 X ポーランド・カトヴィツェ芸術アカデミー交流展」のセクション展として、札幌プラニスホールで開催した。ポーランドは、歴史的な軌跡や勢力分布に翻弄されながらも、独特で優れた芸術家や文化人を輩出してきた。カトヴィツェ芸術アカデミーは、版画とポスター芸術に優れた美術大学として知られている。版画とポスターの展覧会は今までに見られない試みである。ポスターデザインは、2羽のトキが重なり合いながら羽ばたく姿を描いた。トキの学名は「ニッポニア・ニッポン」で、日本で二つの大学が交流するのは意義深い。赤は、ポーランドと日本の国旗の色を表す。



[Title] ----- Always Together
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2012
[Client] ----- 徳島・ポスターギャラリー実行委員会
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 10月30日(火)～11月4日(日)徳島県文化の森総合公園で、野外でのポスター展を徳島・ポスターギャラリー実行委員会が開催した。「2011年3月11日の東日本大震災、福島原発の事故、私たちは言葉を失う事態に遭遇しました。私たちの存在の危うさ、無力感さえ感じました。今日の苦難を乗り越えれば、必ず笑顔で迎えられる明日が訪れると信じて…。」というメッセージをもとに日本と海外6カ国13人のトップデザイナーから「笑顔を忘れないで、いつも一緒だよ。(Always Together)」との想いが込められたポスターである。ポスターデザインは、ラクダの背中のかぶをAlways Togetherの意味を込めて、砂漠の自然の厳しさを越えていく姿を表している。

Takashi Akiyama 60th Birthday 2012



©2012

[Title] ----- Takashi Akiyama 60th Birthday 2012
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2012
[Client] ----- 秋山孝事務所
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 還暦は、干支がぐるっと回って生まれた年の干支になり、新たな暦の始まりだ。とうとう、2012年5月18日ぼくの還暦の年がやってきた。多摩美術大学イラストレーションスタジオのメンバー（卒業生）が、お祝いにトレビュートポスターを制作してくれた。それぞれとても魅力的であった。ぼくは、ポスターに人生を賭けてきた。それならお返しは、自身の還暦ポスターをデザインすることだと思い制作した。はずかしいが「自分自身を自分で支配できない運命の還暦」それがぼくだ、というのが見えてきた。まるで人形遊びの薬人形が宙に浮いているようだ。ゴヤの名作「人形遊び」だ。そこに脱力した無力のぼくが遊ばれているそんなぼくがいる。



[Title] ----- 地震津波 Earthquake Japan
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2012
 [Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] ----- Social, Education

[Idea] ----- 2012年9月で1年6ヶ月が経ち、例年通りに「Earthquake Japan 地震津波」の地震プロジェクトの展覧会を開催した。はじめは、多摩美術大学で「デザイナーのできることは何か」のスローガンで始まった。そして、東京工芸大学が参加し、今年は長岡造形大学が加わり、3大学での開催となった。徐々に美術系の教育機関に影響を与えはじめている。ポスターのアイデアは津波の恐ろしさを、人間の顔のシルエットを使い、力強い生命力も加え、デザインした。北は青森県八戸から、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の太平洋側の海岸にある街を壊滅した。津波に対するあまい意識と監視が明らかになり、東日本の津波監視網の多角的構築が急務である。



[Title] ----- 4. Message Illustration Poster in Nagaoka
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2012
 [Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡(APM)が開館してから多摩美術大学大学院の院生の展覧会「メッセージイラストレーションポスターin長岡」を毎年開催し今年で4回目だ。「ポスター(視覚芸術)におけるメッセージとは何か」の問いに対して、イラストレーション表現研究で各自がその答えを導き出さなければならない。美術館での展示によってのみしか見つけ出せないことがある。その意味で展示空間は大切な場だと信じている。今回のポスターデザインは、マネの名作「笛を吹く少年」をモチーフにしてデザインした。少年の笛から奏でられるメッセージは、美しく感動的だ。響き渡る音色が伝える心のメッセージをポスターデザインに持ち込んだ。

The 1st Tokyo Book Jacket Illustration Competition 2012

第1回 装画の力、装丁の美

東京装画賞2012展

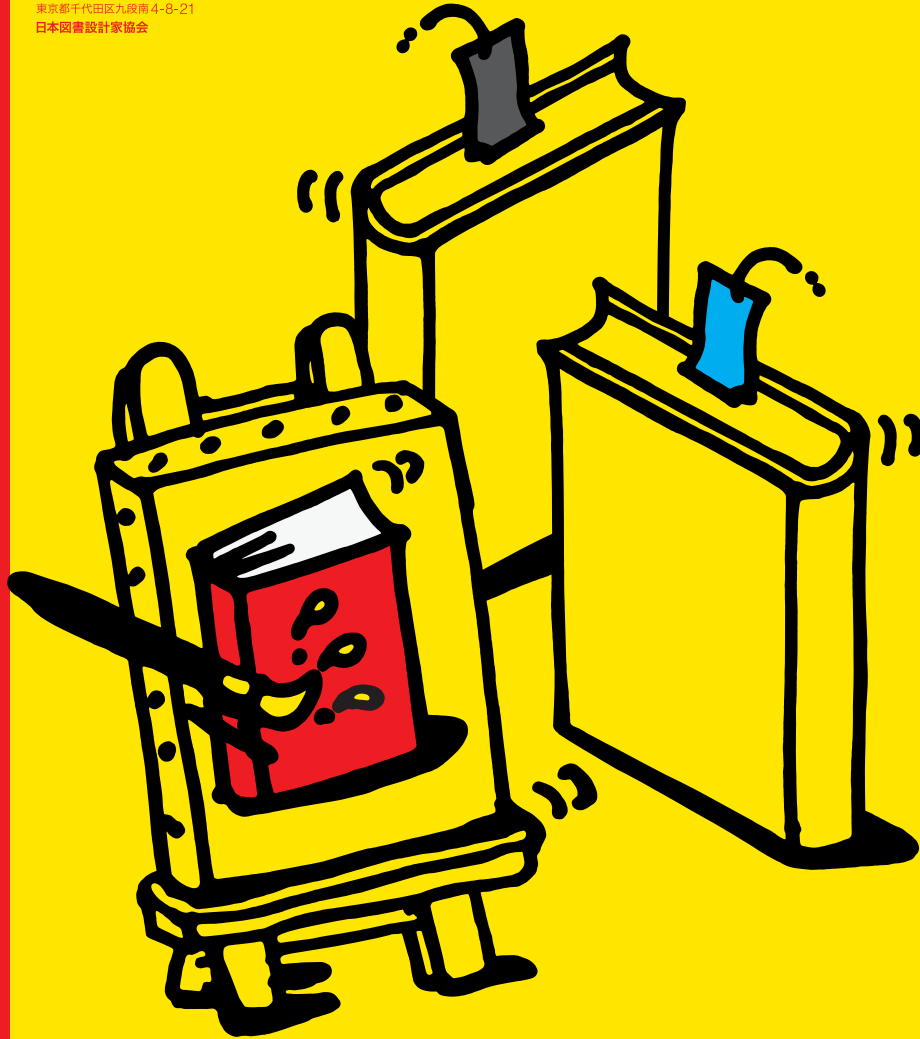
2012.10.12 fri.-10.22 mon.

11:00-18:00 Sunday Closed

山脇ギャラリー

東京都千代田区九段南4-8-21

日本図書設計家協会

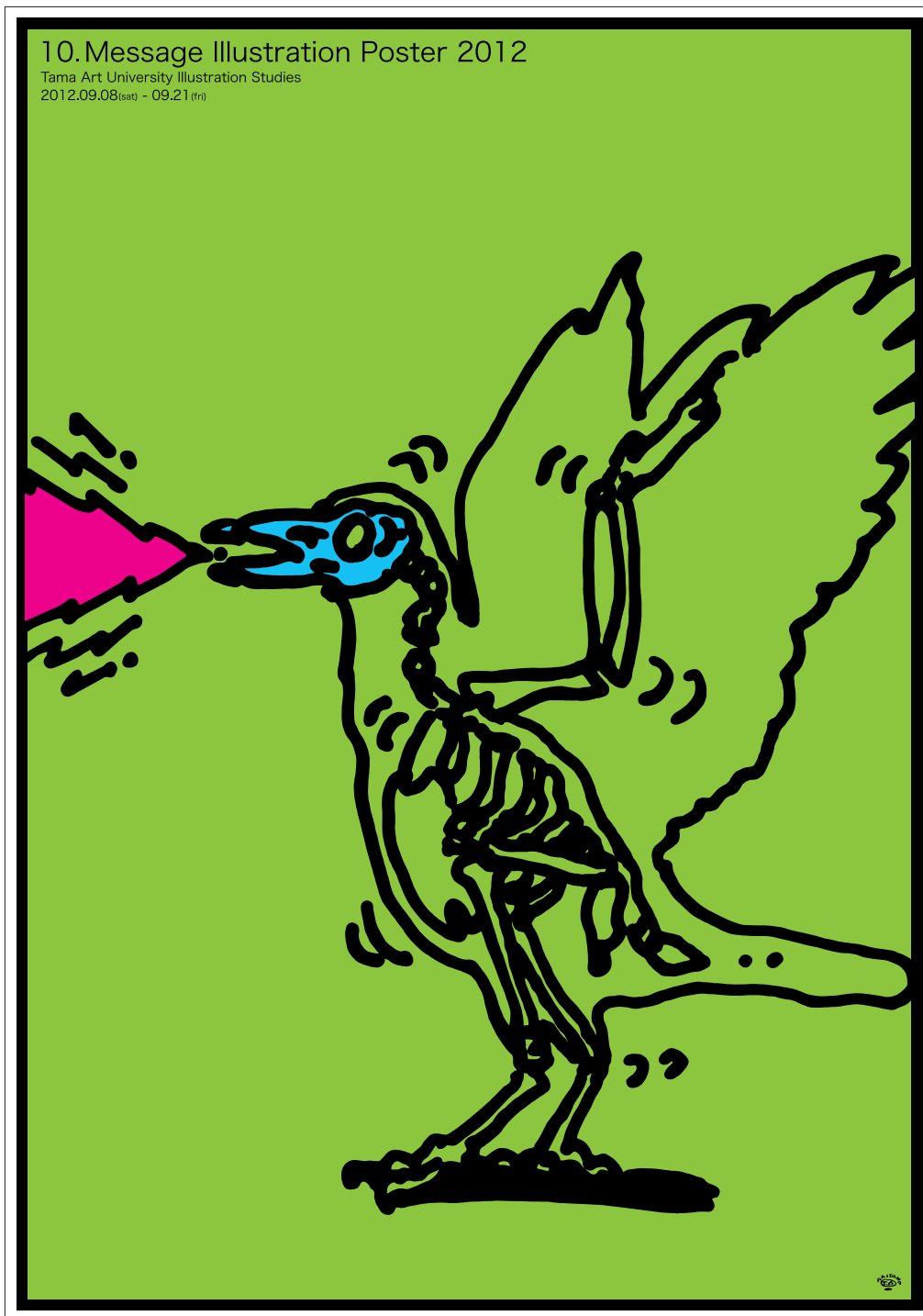


山脇美術専門学校 日清紡ペーパープロダクツ株式会社 秋山孝ポスター美術部長岡 株式会社ワコム 株式会社竹尾 平和紙業株式会社 ダイニック株式会社



[Title] ----- 東京装画賞2012展
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2012
[Client] ----- 日本図書設計家協会・東京装画賞実行委員会
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 第1回東京装画賞は、4/2~5/11まで応募、6/30に審査、8/24に発表、10/13授賞式&パーティーを山脇ギャラリーにて行いました。展覧会は10/12~22まで開催しました。このポスターは、展覧会告知ポスターである。装画賞と言っても、馴染みのないタイトルだがブックジャケットをイラストレーションを中心に、デザインするコンペティションだ。本来、本の表紙を英語ではカバーと言うが、日本はそれを取り間違えて、ジャケットをカバーと呼び、混乱を招いている。そんな中でも想像以上に応募(1283点)があり、応募された一枚のブックジャケットデザインが魅力的で、これまた想像以上であった。それは表現豊かな装画の力を発していた。

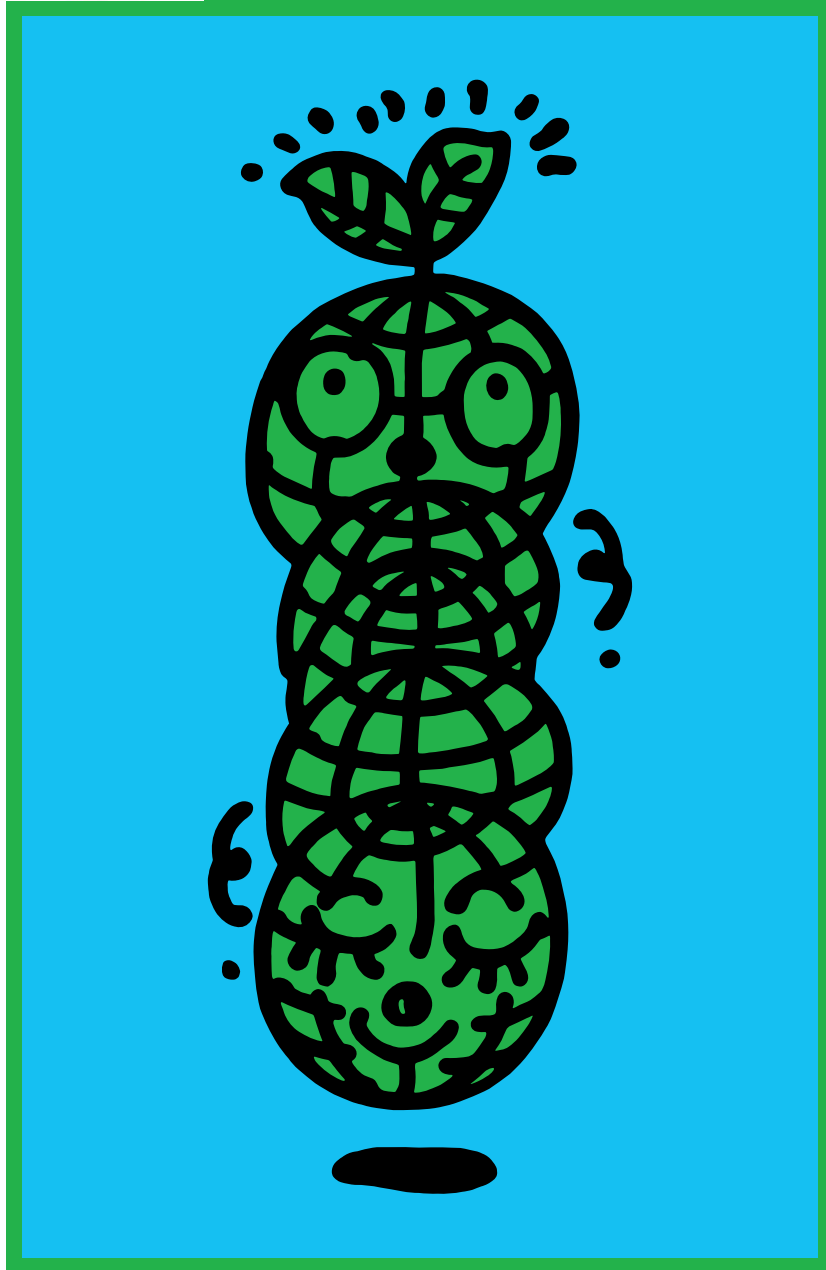


[Title] ----- 10. Message Illustration Poster 2012
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2012
 [Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- メッセージイラストレーションポスター展は、2000年から始まり学部生は10回目、大学院生は4回目を開催し、13年目を迎えた。そのお陰でポスターにおける伝達するビジュアルメッセージが如何なるものかという疑問に立ち向かえる能力を獲得することができた。それは、イラストレーションの「声なき声でのささやき」「声なき声での叫び」を表現する手段であるということだ。芸術の神髄にかかわることになる。今回の展覧会告知ポスターは、ハシブトガラスのシルエットとその骨格から燃える炎が吐いてくる「声なき声での叫び」だ。その心は何か。納得できない社会の問題や抑えきれない感情に違いない。骨の髄まで染み渡るメッセージだ。

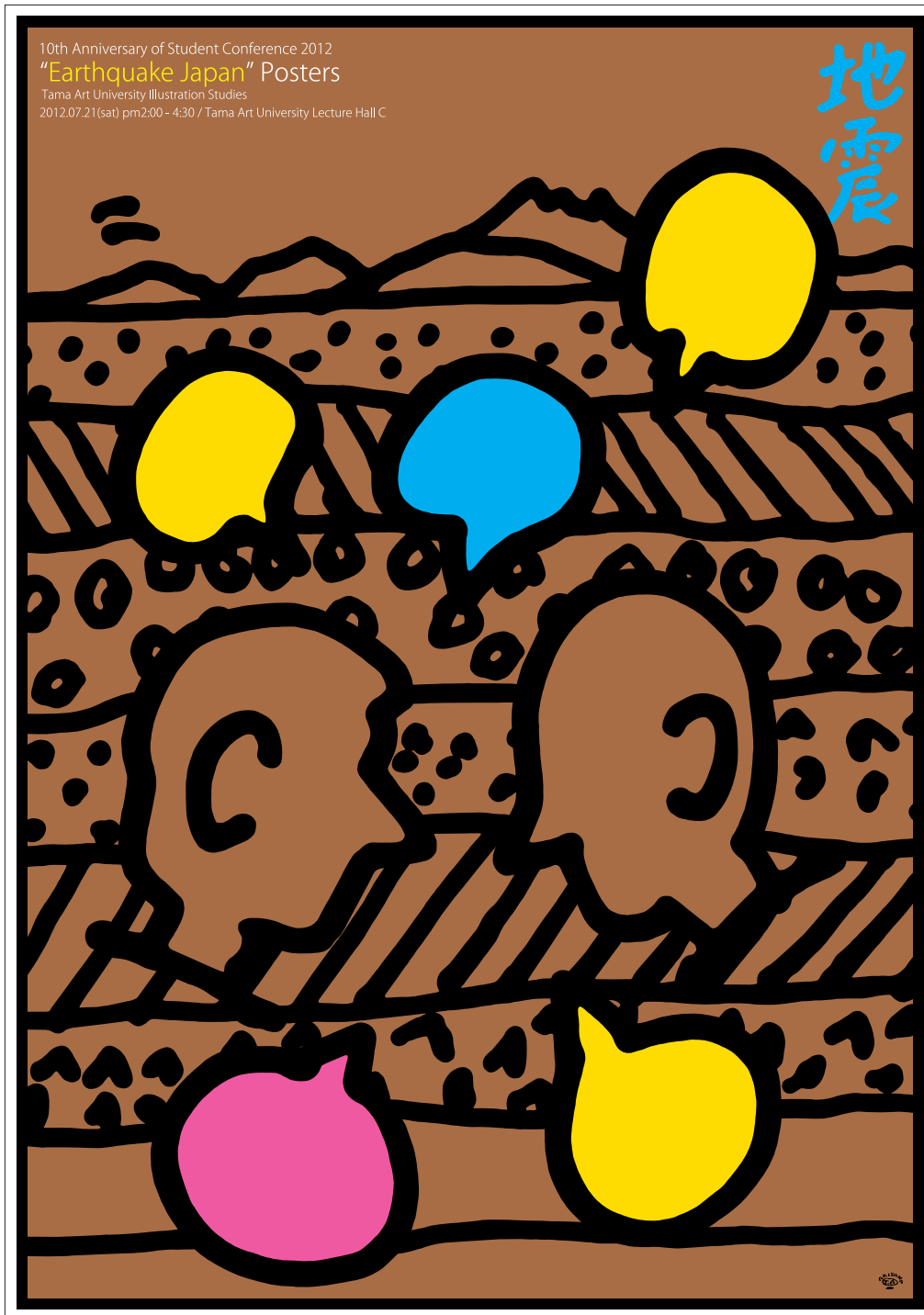
GLOB-ALLMIX

© 2012 GLOB-ALL MIX
ALL RIGHTS RESERVED



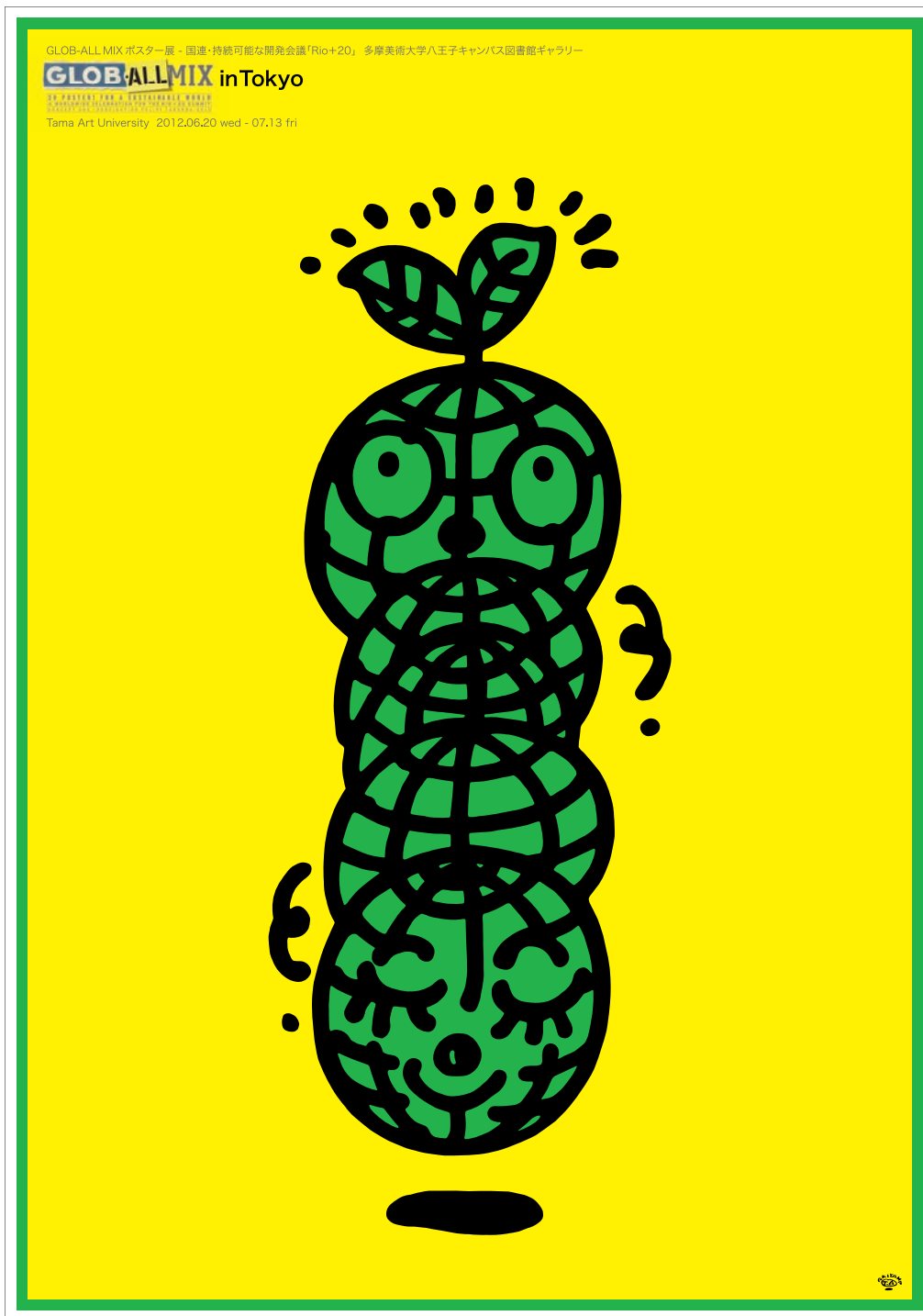
[Title] ----- GLOB-ALL MIX
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2012
[Client] ----- GLOB-ALL MIXポスター展
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 「GLOB-ALLMIX in Tokyo」のイラストレーションと同じだが、これはブラジルで開催された展覧会用に統一したデザインフォーマットに従ってデザインしたものだ。色違いのグリーンとブルーでリオ・地球サミットをシンボル化した。新たなグリーン世界とその調和の芽吹きを表している。リオ+20に期待した優先課題は、1-持続可能な発展を実現させる財政的基盤、2-1992年に地球サミットを契機に築き上げてきた重要な展開を包括的かつ統合的に再構築する、3-グローバルな持続性を実現するための統合的な政策枠組み、4-将来を見据えた巨視的・長期的な視野に立って社会システムの枠組みの調整である。時代は変化しつつある。勇気ある取り組みが必要だ。



[Title] ----- 10th Anniversary of Student Conference 2012
 "Earthquake Japan" Posters
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2012
 [Client] ----- 多摩美術大学イラストレーションスタディーズ
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 「スチューデントコンファレンス10周年記念2012」のテーマとして、「地震国日本」でコンファレンスが行われた。創作(表現)と理論の両輪の獲得を目指して、10年前にオープンキャンパス(多摩美術大学)にて開催した。あっと言う間の10年であった。大学院生を中心としてゲストを招請したり、表現研究発表などを行っている。ポスターデザインは地中の中でコンファレンスをしながら「地震国日本」の未来や、問題を議論している姿だ。地中からその声が聞こえてくるようだ。ポスターから声は聞こえてこないが、ビジュアルを見るだけで、それを感じるのポスターの醍醐味だ。



[Title] ----- GLOB-ALLMIX in Tokyoポスター展
 国連・持続可能な開発会議「Rio+20」

[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)

[Technique] ----- Offset printing

[Date] ----- 2012

[Client] ----- GLOB-ALLMIX in Tokyoポスター展実行委員会

[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 国連・持続可能な開発会議「Rio+20」は、1992年に開催されたリオ・地球サミット「環境と開発に関する国連会議」から20年を機に、ブラジル政府によって2012年6月20日～22日の間、リオデジャネイロで開催した。主要テーマは「グリーン・エコノミー（持続可能な開発および貧困緩和の意味でのグリーン・エコノミー）」と「持続可能な開発の組織的フレームワーク」だ。「Rio+20」ポスター展は会期に合わせて6月20日から30カ国で同時に開催され、東京では、多摩美術大学図書館ギャラリーで6月20日～7月13日まで開催した。ポスターデザインは、持続可能な地球をイメージし、新たなグリーン世界とその調和の芽吹きを表現した。

新都区桂湖公园湖心楼・北欧知识城 / 主催：成都市新都区对外文化交流協會 / 承辦：北歐知识城 / 後援：深圳插画協會
秋山孝 in 四川成都 2012
2012.06.27 - 07.25



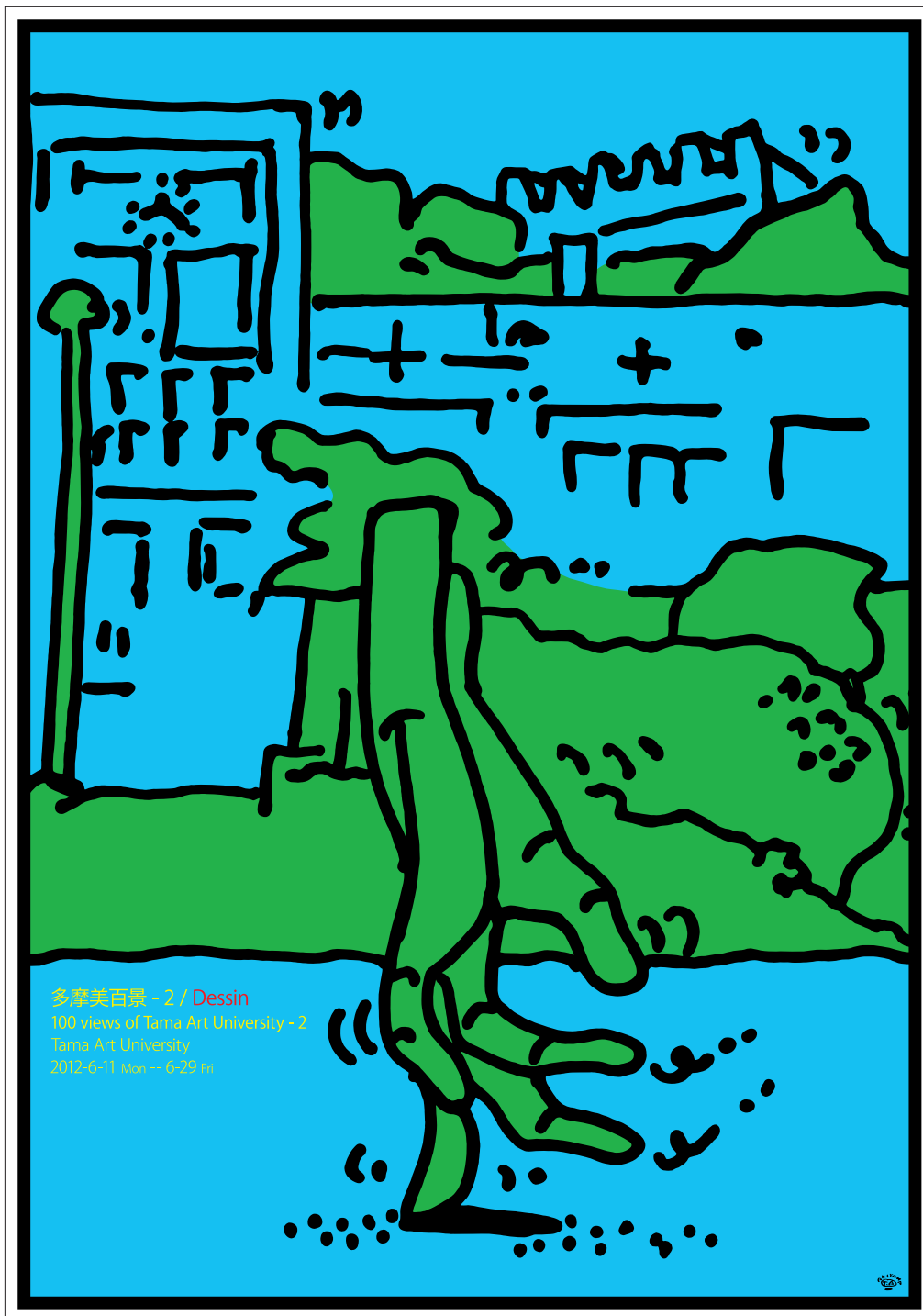
[Title] ----- 秋山孝in四川成都2012
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2012
[Client] ----- 成都市新都区对外文化交流協會
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 今年の中国での展覧会「秋山孝in四川成都2012」展(7/25~6月26日)は四川省成都政府の向かいにある桂湖公園の湖心楼で開催された。その庭園は、隋唐の時代に建設され2000年を経た優雅な佇まいだ。唯一保存され重要文化財に指定されている。日本の庭園とは異なり雄大な優雅さがある。オープニングセレモニーでは、小雨が降り、池に咲く蓮が美しく輝いていた。ぼくの作品は、その空間と想像以上に調和していた。展覧会ポスターのデザインは、四川のシンボル「パンダ」が竹藪のグリーンに同化し、芸術家のアングルに入った瞬間を現した。出会いの感動だ。ぼくたちは、いつも自然の中で美との出会いを探している。



[Title] ----- 「越後百景十選」 秋山孝ポスター展4
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2012
[Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- 「秋山孝ポスター展4」は、越後をテーマとした「越後百景十選」(10点)をメインに展示した。以前から多くは、故郷の越後をモチーフとした「越後百景」を制作しようと考えていた。越後は、まだまだ計り知れない魅力とその美しさに満ちあふれている。そこには、奥深い歴史と人間性のある生活から出てくる独特の表情と、その自然による地形や人が育んできた文化があるからだ。江戸の浮世絵師、北斎や広重とは少々異なるが、現代のメディアであるポスターで越後の美を表現したいと制作した。ポスターデザインは、歴史ある建物が残る長岡市撰田屋、機那サフラン酒本舗(創業者:吉澤仁太郎)の豪華なエントランスと母屋それに明治44年の木製看板も描いた。



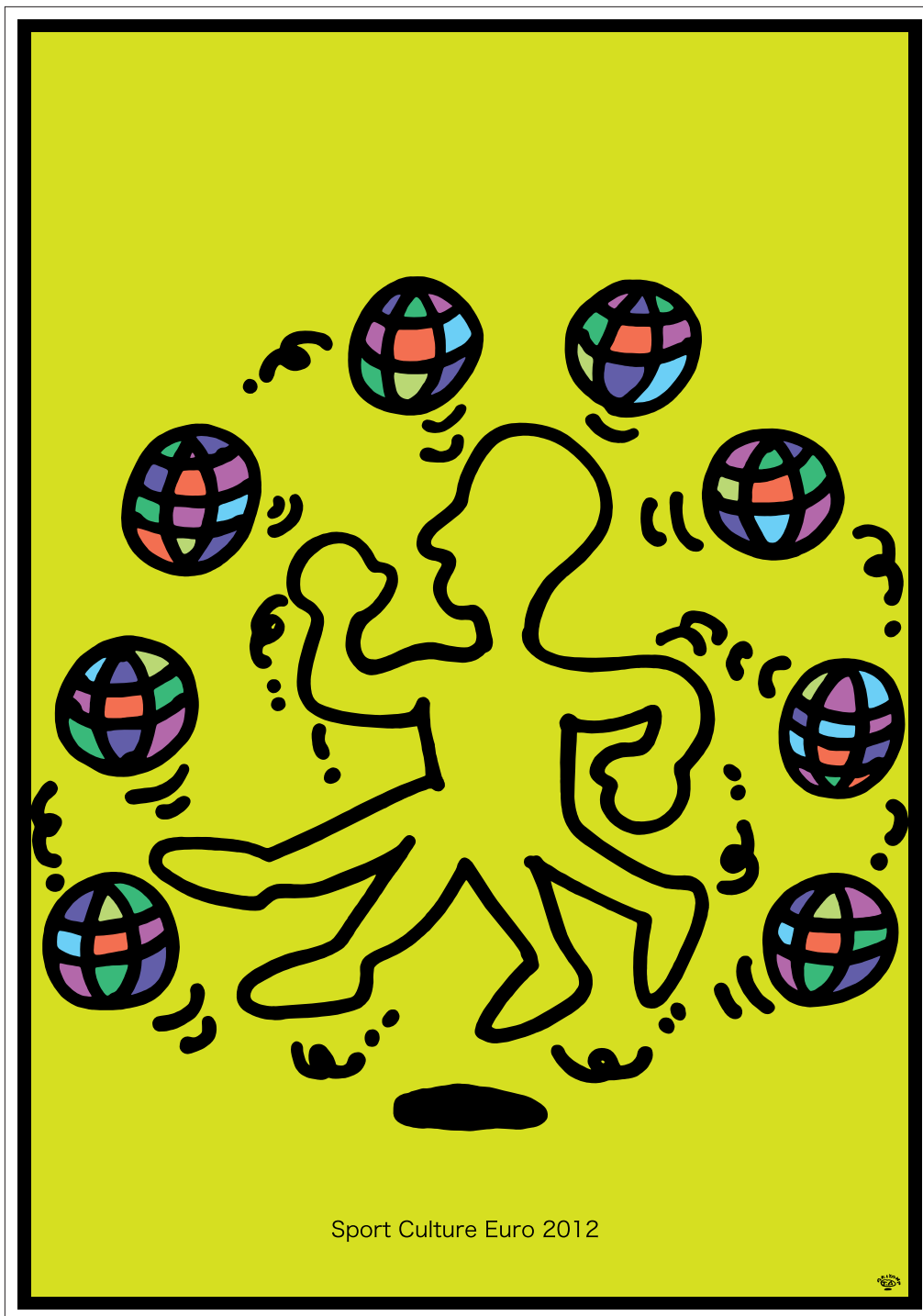
[Title] ----- 多摩美百景 - 2 / Dessin
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2012
 [Client] ----- 多摩美術大学 デッサンプロジェクト
 [Category] ----- Education

[Idea] ----- 二回目の「多摩美百景/Dessin」の展覧会だ。多摩美のキャンパス内の風景をモチーフに学生1、2年生(グラフィックデザイン学科)の課題である。身近なキャンパスを各自の視点で、丁寧に時間をかけて表現研究する姿は、美術大学にしか見る事のできない風景だ。ぼくは、この学生たちの野外での制作風景はとても好きな光景だ。多摩美の学生にとってみれば、当たり前の風景だが、じっくりと観察しキャンパスに描くことはほとんどない。その点が重要で、画家たちは自分の身近な風景の名作を作り上げている。デザインは、ぼくの好きなキャンパス内にある、竹田光幸先生(彫刻科)制作の「手」がキャンパス内を歩き出したアイデアを描いた。



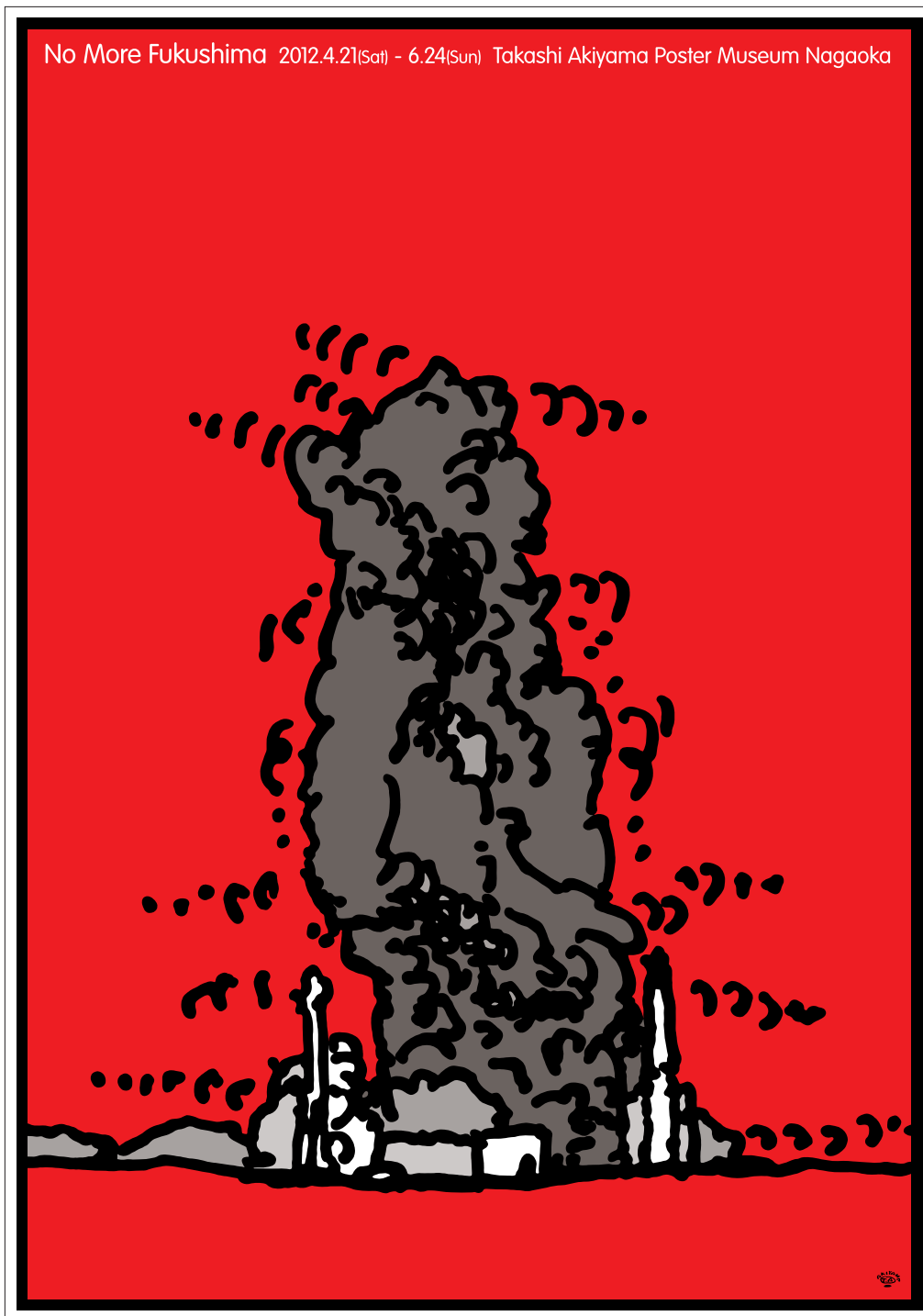
[Title] ----- 御守 彌高神社 秋田
 [Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
 [Technique] ----- Offset printing
 [Date] ----- 2012
 [Client] ----- 彌高神社
 [Category] ----- Culture

[Idea] ----- 秋田市の千秋公園にある彌高神社から、御守りのデザインの依頼を受けた。県社彌高神社は、森を背にした静謐な佇まいの由緒を感じる神社だ。2012年5月1日、例祭奉納行事宵宮祭が行われ、神楽「浦安の舞」など神聖な空間で透明感を感じる風で心が洗われた。翌日、彌高神社例大祭奉納行事において玉串拝礼し、直会(なおり)において奉納した原画をお披露目した。御守りは、ブルーの色彩を基準に金糸銀糸を施し「森羅万象に神宿る生々発展」をイメージした。そして、ポスターデザインは、シンメトリーの構図で左右に神宿る森羅万象を象徴する樹木と地球を配した。センターのタイポグラフィー「御守」「彌高神社」は、自筆である。



[Title] ----- Sport Culture Euro 2012
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2012
[Client] ----- ポーランドオリンピック委員会 ヨーロッパ文化協会
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- ポーランドオリンピック委員会ヨーロッパ文化協会から、ワルシャワで「ユーロサッカー大会」が開催するため、「Sport Culture Euro 2012」というタイトルで、展覧会ポスター制作の依頼があった。サッカーは国際的な人気スポーツだ。ほくは、巧みな技術、チームワークやゴールの瞬間は微妙で興奮する。その見事さを地球をサッカーボールに置き換え、縦横無尽に動く足をデザインのポイントにした。色彩はサッカー場の美しい芝生に芽生える若草の色を選んだ。その後、クリエイションギャラリーG8で開催されたアロハシャツをデザインする「EAST ALOHA」展に出品した。地球をサッカーボールに見立てたイラストを地紋化し、新しい文化アロハが出来た。

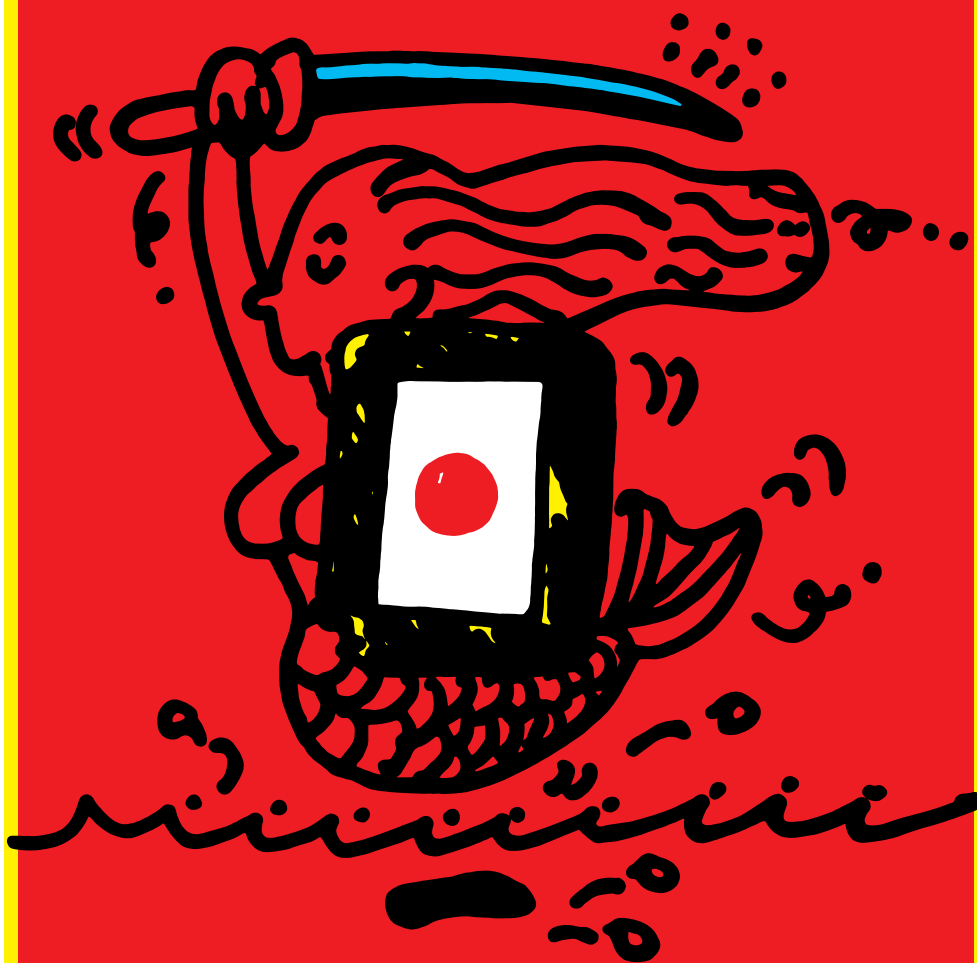


[Title] ----- No More Fukushima
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2012
[Client] ----- 秋山孝ポスター美術館長岡
[Category] ----- Social, Ecology

[Idea] ----- 「ノー・モア・フクシマ」という展覧会タイトル名は、66年前の1945年「ノー・モア・ヒロシマ」を思い起こし重ね合わせられるようにつけた。昨年3月11日に起きた東日本大震災は、地震、津波、原発事故とわずかな時間差でやってきた。地震、津波災害とは異なり、目処がつかない原発事故の問題を現代社会が提示してきた。ところが私たちの長岡市には、となり町に東京電力柏崎刈羽原子力発電所があり1号機から7号機までの大規模な原子炉がある。つい近年、2007年7月16日に新潟県中越沖地震が起きたときの記憶は新しい。この地震では、柏崎市で震度6強を観測したため、運転を行っていた2、3、4、7号機は自動で緊急停止した。危機一髪だった。わが美術館のある藤造の街は、豊かな自然水がありこの恵みで成り立っている。東となりの県、福島のことを考えると人ごとではない。私たちには、未来のために実現しなければならないことがある。今がそのときだ。

23 Międzynarodowe Biennale Plakatu w Warszawie 2012
Muzeum Plakatu w Wilanowie

23rd International Poster Biennale Warsaw 2012
Poster Museum at Wilanów
June 2nd 2012 - September 16th 2012



[Title] ----- 第23回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ2012
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] ----- Offset printing
[Date] ----- 2012
[Client] ----- ワルシャワ・ヴィラノフポスター美術館
[Category] ----- Culture

[Idea] ----- ワルシャワ国際ポスタービエンナーレの審査員として5月にポーランドを訪れた。ぼくは、1985年に初めてワルシャワを訪れて以来ビエンナーレが開催するたびに参加している。ポスターの聖地のような街だ。世界からたくさんのポスターデザイナーが集まり国際交流の場である。審査は7人の国際審査委員の長い議論の末、各部門の金賞受賞者が決まり式典は最高に盛り上がる。このポスターは、展覧会告知のためのものでワルシャワの街中に貼られる。デザインは、ワルシャワのシンボルの人魚とポスタービエンナーレのマークとをモチーフにした。まるで日本の国旗のようだがビエンナーレのシンボルロゴだ。人魚が果敢にワルシャワを救う姿を描いた。



ワルシャワ・ヴィラヌフポスター美術館 Wilanow Poster Museum, Warsaw



ワルシャワのシンボル・人魚像 / 旧市街にて Pomnik Syreny / Old Town, Warsaw



中央:レフ・マエフスキ(ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ議長)、秋山孝 Center:Lech Majewski(Chairman,International Poster Biennale Warsaw), Takashi Akiyama

多摩美術大学教授 秋山孝さん

「キャラクターは人と人との間に在る」



福助・招き猫と微笑む秋山さん

そもそも、キャラクターとはどのような役割を持つものなのだろうか。「こどもメカネ アンファン」や『東武動物公園』のキャラクターを生み出した、多摩美術大学教授の秋山孝さんにお話を伺った。

「キャラクターとは人と人との間に立つもの」と秋山教授。例えばぬいぐるみ、贈るとき、贈り主は相手に、ぬいぐるみなどのキャラクターを介してコミュニケーションを成立させたり、人の思いを喚起させたりすることができると教授は語る。手塚治虫の影響は大きいと話した。

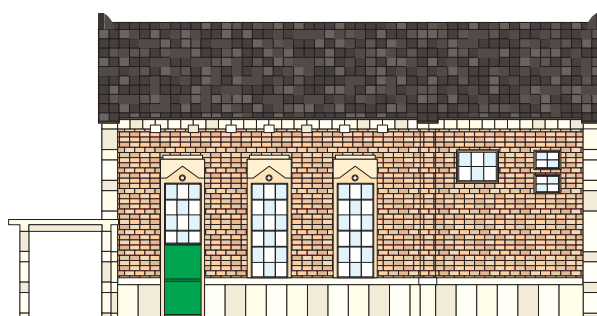
「ボバイ」のらくろ」「エアリックス」「天才バカボン」など、数多くの人気キャラクターの顔を重ねると、よく似た構造であることがわかる。これらは白銀比と呼ばれる比率(顔の中央に鼻がある、五対七の枠の中に入るに当てはまること)の頭身であること、楕円形の組み合わせでできていることが共通している。

教授は「ビットの法則」と呼ばれているこれらの特徴はすべて『鉄腕アトム』に通じている。手塚治虫の影響は大きいと話した。

今年行われたロンドン五輪にも「ウエシロックとマンデビル」というキャラクターが登場している。初めて作られた五輪のキャラクターは、一九八〇年モスクワ五輪の「こくまのミーシャ」。使用权を売って開催費の一部に充てることを目的としてつくられ、日本でもテレビ朝日系列でアニメ化された。その後、一九八四年ロサンゼルス五輪の「アーケルサム」など、毎回キャラクターが作られるようになった。

九九四年バルセロナ五輪の「ビー」は、スペイン人の有名デザイナーであるハビエル・マリスカルが考案し、従来のアメリカ風ではなくヨーロッパならではのデザインが話題を呼んだ。

早稲田大学の大量重信像やフランスの首都パリのエッフェル塔のようなシンボルもキャラクターの一種と考えられる。「人々がある場所を訪れると、必ずシンボルの前で写真を撮ろうとする。その場所を象徴し、思い出を共有できるという意味で、これらも広い身ではキャラクターとしての役割を果たしている」と教授は話した。



2013年「秋山孝ポスター美術館長岡」開館のご案内

- 第12回企画展「高田清太郎の建築デザイン哲学」展 4月20日(土)～5月25日(土)
・第18回美術館大学 4月20日(土) pm3:00～4:30 講師:高田清太郎、秋山孝
- 第13回企画展「ポーランドポスターの巨匠 in 長岡」展 6月1日(土)～6月29日(土)
・第19回美術館大学 6月1日(土) pm3:00～4:30 講師:御法川哲郎、秋山孝
- 第14回企画展「声なき声を聞く」秋山孝ポスター展5 7月6日(土)～9月23日(月)
・第20回美術館大学 7月6日(土) pm3:00～4:30
- 第15回企画展「メッセージイラストレーションポスター」展5 10月5日(土)～10月31日(木)
・第21回美術館大学 10月5日(土) pm3:00～4:30

・開館時間 : 午前11時～午後5時まで(入館は閉館の30分前まで)
・休館日 : 火曜日/開館期間:4月～10月・閉館期間11月～3月 ・入館料 : 無料

"Takashi Akiyama Poster 2013-2012"

発行日 :2013年4月1日 / APM - 8
 発行者 :秋山孝
 発行所 :秋山孝ポスター美術館長岡
 〒940-1106 新潟県長岡市宮内 2-10-8
 Tel,Fax : 0258-39-1233
 E-mail : info@apm-nagaoka.com
 URL : http://apm-nagaoka.com

編集/デザイン:秋山孝/高橋庸平
 印刷所 :東銀座印刷出版株式会社
 ※無断で複写、複製および使用を禁ず。

・中綴じ製本/A4(天地297×左右210mm)
 ・表紙・本文:ライトスタッフGA菊Y93.5

"Takashi Akiyama Poster 2013-2012"

Date of issue : 2013.04.01 / APM - 8
 Publisher : Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka
 2-10-8 Miyauchi Nagaoka-city Niigata 940-1106 Japan
 Tel,Fax : 0258-39-1233
 E-mail : info@apm-nagaoka.com
 URL : http://apm-nagaoka.com
 Edit/Design : Takashi Akiyama/Yohei Takahashi
 Printed in Higashi-Ginza Insatsu-Shuppan Inc.

© 2013 Takashi Akiyama, Published in Japan by Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka.

All right reserved.No part of this book may be reproduced in any form or by any means, electronic or mechanical,including photocopying or recording, or by any information storage and system,without permission in writing from the publisher.

